

### 3. 土日、祭日退院患者服薬指導の現状と課題

筑波大学附属病院 副看護部長 横田すい子

#### [実践概要]

在院日数短縮や家庭の都合等により、土日、祭日退院患者は年々増加傾向にあるが薬剤師が不在のため、看護師の服薬指導業務時間の増加に繋がっている。そこで患者アメニティ・経営担当副部長として、現状の問題を明確にするために実態調査を行い、患者サービスの向上と看護師の業務量軽減のための方策を探る手がかりを得たいと考えた。

#### [実行概要]

##### 1. アクションプランの目標

看護部として土日、祭日の退院患者服薬指導における患者サービスの向上と看護師の業務の軽減を図るために、病棟薬剤師配置の必要性を病院側に要望できる。

2. 調査期間：平成18年12月23日～平成19年1月21日の土日、祭日

3. 対象者：18看護単位の日勤師長代行看護師

4. 調査方法：自記式質問紙で、「退院患者総数」「指導時間帯と指導に要した時間」「指導対象者」「薬剤説明書配布の有無」「退院処方入力時間帯」「2005年と2006年12月の退院患者総数と土日、祭日退院患者数」を調査し、記述統計を行う。

#### [結果及びまとめ]

土日、祭日に退院する患者は、昨年度と比較して約50%増加しており、今後も医療情勢上土日、祭日に退院する患者の増加が見込まれる。また約80%近くの患者に看護師が、服薬指導を実施し、一日平均5.97時間もその業務に費やしている実態が明らかになった。指導対象者は、60歳以上が47.3%を占めており、指導は患者のみならず家族を含めた指導が38.6%実施されている状況がある。つまり、在宅における服薬管理は、内服薬に関する知識や高度な指導技術が求められており、専門家である薬剤師による服薬指導を必要としていると言える。しかしながら現在は、土日、祭日の服薬指導できる薬剤師の配置体制となっておらず、今後増え続けると予想される土日、祭日退院患者への医療サービスを考えたとき、土日、祭日の服薬指導できる薬剤師の配置を検討する必要があると言える。しいては、病院経営の面からも退院服薬指導加算徴収額の増収にも繋がり、さらに看護師の服薬業務の軽減により、看護独自のケアに時間を費やすことで患者サービスにも繋がると考えられた。また、退院患者の57%は臨時退院、退院処方入力時間は退院直前が約58%で、薬剤説明書の配布もほとんど無かったことから、現行において薬剤師の服薬指導を少しでも可能にする為には、臨時退院患者を極力減少させること、退院時処方をできるだけ早く医師が処方し、退院前の平日に指導できる様にする、退院処方薬には、薬剤説明書を全て添付することで、看護師の服薬指導の質向上、すなわち患者サービスの向上に繋がると考える。

以上の結果をもとに、今後の取り組みとして、土日、祭日退院患者への薬剤師による服薬指導の充実による患者サービスの向上と、看護師の業務量の軽減、薬剤管理指導料収益の増収のための、薬剤師の確保を病院会議に要望すること、また、平成20年の次期医療情報システム更新の際の薬剤管理システム検討の依頼及び退院患者全員への薬剤説明書の添付の実現の為に、薬剤部との交渉を行う。